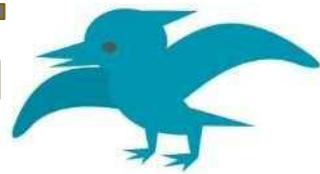


いし かせき いし 石・化石・ふしぎな石



みなさんのまわりにはどんな石があるかな。山の石と川や海の石はちがいがああるのかな。石や化石はどうやってできたのか考えてみたことはありますか。それには、水やマグマなどの地球の活動がかん係しています。知れば知るほどおもしろい石や化石の本をしょうかいします。



『海辺の宝もの』

ヘレン・ブッシュ／著
鳥見 真生／訳
佐竹 美保／画
(あすなろ書房)



メアリー・アニングは今から200年くらい前に、イギリスの小さな港町に住んでいました。メアリーはお父さんといっしょに、かわり石(化石のこと)を見つけることが大すきでした。11才の時、お父さんがなくなり、家計を助けるためにかわり石を売るお店を始めます。

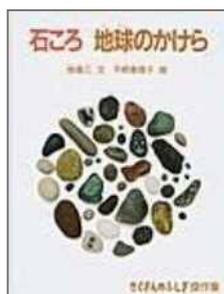
ある日、お店に地球のなぞを研究している科学者が入ってきました。その人は、お店の中のかわり石や動物のほねを見るとおどろき、もっとたくさん見つけてほしいと言いました。

そしてメアリーは、大昔のきよ大な生物のほねを発見します。



『石ころ 地球のかげら』

桂 雄三／文 平野 恵理子／絵
(福音館書店)



石をよく見たことはありますか。石のもようは、その石がどのようにしてできたかを物語っています。

『いしのはなし』

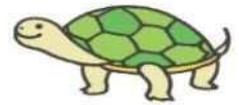
きれいでふしぎでやくにたつ、ちいさなちきゅう
ダイアナ・アストン／文 シルビア・ロング／絵
千葉 茂樹／訳
(ほるぷ出版)



もっとも古い石、世界で一番大きな石、役に立つ石、石のいろいろなことがわかります。



いし ほん いろいろな石の本



『ロバのシルベスターと まほうの小石』

ウィリアム・スタイグ／さく
せた ていじ／やく
(評論社)

ロバのシルベスターは、のぞみがかうまほうの小石を拾った帰り道で、ライオンに出会い、あわてて「岩になりたい」と言っていました。

岩になったシルベスターがロバにもどる方ほうは一つだけです。それは、だれかが小石を拾って、「岩よロバになれ」と言ってくれることです。



『あたまにつまった石ころが』

キャロル・オーティス・ハースト／文
ジェイムズ・スティーブンソン／絵
千葉 茂樹／訳
(光村教育図書)

「あいつは、ポケットにも頭の中にも石ころがまっているのさ」子どものころから石をさがして歩く父を見て、まわりの人は言いました。

大きな石を集め、石の勉強をつづけていた父は、ある日、科学はく物館の館長と出会い、石のせん門家としてはたらくようになります。



『イーダ』 美しい化石になった小さなサル のものがたり

ヨルン・フルム、
トルシュタイン・ヘレヴェ／文
エステル・ヴァン・フルセン／絵
河野 礼子／監修
遠藤 ゆかり／訳 (創元社)

世界一美しいサルの化石「イーダ」はどのようにできたのでしょうか。

イーダは4700万年前の化石で、横たわった、そのままのすがたで発見されました。これはとてもめずらしいことです。そのすがたからイーダに何が起こったのかを知ることができます。



『いしになったかりゅうど』

モンゴル民話
大塚 勇三／再話
赤羽 末吉／画
(福音館書店)



『石の中のうずまきアンモナイト』

三輪 一雄／文・絵
松岡 芳英／写真
(福音館書店)



『青い月の石』

トンケ・ドラフト／作
西村 由美／訳
(岩波書店)